

立命館小学校 2017年度 学校総括

教育目標	12年間の一貫教育を見すえた「培根達支」の精神と「命を立てる館」を確立するために、子ども達にとって「人生に必要な根っこ」を鍛え、「命輝く小学校」を作る。		中期目標	①小中高4－4－4制一貫教育推進のための校務運営・組織の一体化 ②小中高4－4－4制一貫教育における教育課題の実現 ③小中高一貫教育の独自課題の追求 ④SGH、SSH事業の充実・特色化と成果の発信及びMSCコースの充実と他大学進学実績の向上 ⑤教育課題を推進するための環境整備		
区分	A. 課題(上位目標)	B. 目標(中位目標)	C. 達成目標(当年度目標)		D. 自己評価	E. 具体的施策(どのような方法で)
教学課題	Ⅰ 小中高4－4－4制一貫教育における教育課題の実現	1 12年一貫教育のメリットを生かす教育内容の系統化と将来像の検討	(1)	セカンドステージの課題と問題点の整理 及び改善策の検討	○	①セカンド教頭・主幹との連絡連携、実態把握 ②児童アンケートも採りながら、現場教員と成果と課題を共有する ③国際室と連携し、海外研修の適切な設定と語学力の到達目標を検討する
			(2)	12年一貫教育における「国際教育」カリキュラムづくり	△	
			(3)			
		2 教科を中心とした教育内容の「系統化」の検討	(1)	各学年における学習内容・到達目標の再検討と検証	○	①学習指導室の分掌を要として、各教科主任・部員と連携し、学習内容・達成目標リストを作る
			(2)			
			(3)			
		3 G5・G6児童の長岡京登校の質的発展	(1)	12年一貫教育を視野に入れた上での意義のある通学	○	①長岡京登校でしかできないことは何かを考えて取り組む ②G7から完全通学することを見据えた上で、児童にとっての学びのモチベーションが上がる教育活動にする ③長岡京登校の活動内容を十分吟味した上で、登校期間を検討する
			(2)			
			(3)			
	Ⅱ 小中高一貫教育の独自課題の追求	1 小学校の「強み」と「弱み」の検証	(1)	小学校6年間で目指す学力到達目標の明確化	○	①小学校6年間の学力の到達状況のデータをもとにした検証 ②中学校・高等学校進学児童の学力の到達状況のデータからの検証 ③各学年教員所属のICT教育部を設立して、カリキュラムづくりに取り組む
			(2)	情報科(ﾛﾎﾟﾃｸｽ・ICT)の新設に伴う系統カリキュラム作成	◎	
			(3)			
		2 教育の4つの柱の現状と課題の明確化	(1)	「学力」「真の国際人」「豊かな感性」の現状と課題把握	○	①4つの柱における児童の実態をデータも含めて把握する ②定期的に学習習得データを取り、指導の検証に取り組む ③校内重点研究として「立命科(道徳)」の授業研究に取り組む ④外部検定等も活用し、到達度を検証していく
			(2)	人格形成に関わる「倫理観と自立心」の指導のあり方探求	◎	
			(3)			
		3 次年度を見据えた「評価を伴う道徳科(立命科)」に向けた指導と評価の明確化	(1)	年間の校内重点教科を「立命科(道徳)」として取り組む	◎	①年間を通して、全担任が校内公開授業に取り組む ②学年ごとに指導案検討し、評価評定方法も提案する ③教員全体で、評価評定方法、所見の書き方を学び合う
			(2)	評価評定としての所見記入の方法と内容表記の確立	◎	
			(3)			
	Ⅲ SGH、SSH事業の充実・特色化と成果の発信、及び、MSCコースの充実と他大学進学実績の向上	1 グローバルリーダー育成のための国際交流・国際教育のあり方についての検討	(1)	12年一貫教育を通した英語力到達目標の確立	△	①国際室及び国際専門担当を設置し、国際交流・学校交流を進展させる ②英語科と連携して、過去の到達データをもとにした検証を行う
			(2)	12年一貫教育内の海外語学研修事業の課題把握と改善検討	◎	
			(3)			
		2 学びのモチベーション(学びの構え)を作り高めるための指導の強化	(1)	立命館に通い学ぶ事の誇りと自信を抱き続ける児童の育成	○	①児童の「心のコップ」を上向きにする意識を持った教員による日常指導 ②自ら学びを追究していく「自学習」への取り組みを意図的に行う
			(2)	知的好奇心を持ってあらゆる事から学び続ける児童の育成	○	
			(3)			
		3	(1)			
			(2)			
			(3)			
管理運営課題	Ⅰ 小中高4－4－4制一貫教育推進のための校務運営・組織の一体化	1 学校組織一体化に伴う1年目の組織運営の実施及び課題の確認	(1)	校舎分離型一貫校としての円滑な組織運営の在り方の探求	○	①小中高・同じ分掌の組織運用の善し悪しを日常組織活動を通して点検する
			(2)			
			(3)			
		2	(1)			
			(2)			
			(3)			
		3	(1)			
			(2)			
			(3)			
	Ⅱ 教育課題を推進するための環境整備	1 情報科(ﾛﾎﾟﾃｸｽ・ICT教育)新設に伴う各教室等のICT教育環境整備	(1)	各教室に授業活用のための新規常設ICT機器の設置	○	①「ICT校内環境整備委員会」(仮称)を設立し導入検討会を持つ ②数年先を見通し、授業効率上がる、最新最先端の機器の選定をする
			(2)			
			(3)			
		2	(1)			
			(2)			
			(3)			
		3	(1)			
			(2)			
			(3)			

達成状況	目標に向けて、遂行出来た点は大きく3点ある。一つは、2 0 1 8年度から始まる「道徳の評価化」に伴う研修として、校内重点研究教科として「立命科」と定め、大学の先生の講師招聘の下、全担任による公開授業と学年研究による「評価例」を年間通して研修し合うことで、新しい所見表記に対する対応がしっかりとできたことが挙げられる。二つ目は、文部科学省の認可を受けて、1～4年生ロボティクス科・5、6年生I C T科としてまとめた「情報科」を新設展開できたことである。とりわけ、I C T科に関しては、初年度の取り組みであったが、児童一人一台タブレット活用を進めてきている本校にとっては、その機器を効果的に活用するための学習カリキュラムづくりを進められたことは意義深いものとなった。三点目は、「海外語学研修事業の新たな進展」である。国際室担当教員を増やし、タイやインドネシアやシンガポール等新たな海外校との積極的な交流を始め、校内では英語案内児童を組織し、海外校にならった校内ガイドを進めることができた。その他、児童への指導に関しては、「時を守り、場を整え、礼をつくす」という方針と児童の構えとして「心のコップを上向きにする」という働きかけを年間通して進めることができた。この点については、まだまだ目標に達していないので、継続的に次年度も全教員の指導の指針としていきたい。 また、施設面でのI C T機器の新規導入に関しては「I C T校内環境整備委員会」を設立して、最新にして最先端の機器の導入を検討したが、様々な機器の制定と新しい授業スタイルの構築の論議も必要であり、設置に関しては、次年度へ継続審議となった。先の2 0 2 0年度からの新たなカリキュラム作りともリンクさせて、次年度には、新機器と新教室環境を決定させたい。
改善策	課題としては、カリキュラム整備の問題がある。その解決策として、1 2年一貫教育におけるカリキュラムを2 0 2 0年度の新学習指導要領実施に向けて、新しく作り直す作業を進めたい。とりわけ、小学校における新カリキュラムや教育諸課題の解決に向けては、次年度(2 0 1 8年度)中に論議していく必要があり、特設委員会を設置し継続的に審議していかなければならない。
支援希望	児童の多様化の課題に関わっては、教員だけでは限界もあり、専門機関や外部機関との連携を密にした指導展開の必要もあり、教育相談支援センターのようなものの組織確立と施設拡充を進め、その指導が遂行できるような体制の強化を図る必要がある。